

## ハエトリグサは、ハエしか食べないの

### 栄養を補うため、虫をとらえる

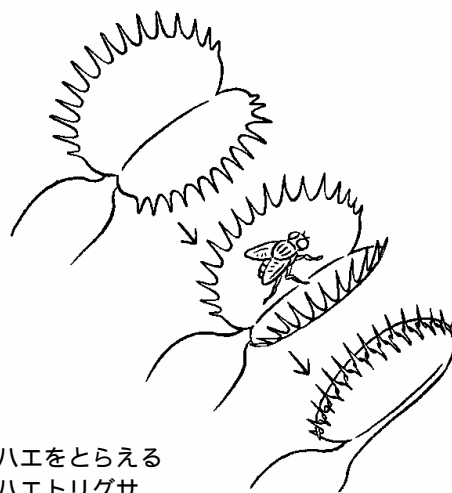
ハエトリグサは、北アメリカの、栄養分が少ない土地に生えている植物です。そのため、ふつうに根から吸い上げるだけでは、養分が不足するため、葉に、虫などをとらえる、しかけをもつようになったと考えられています。

ハエトリグサの葉は、葉の表面の左右に、1ミリメートルぐらいの小さいとげ(感覚毛という)が、3列ずつ並んでいます。この葉の感覚毛に2回何かかふれると、パッと葉を閉じてしまいます。葉に閉じこめられたハエなどが、もがくと、葉はぎゅうっとしまつてハエを動けなくし、葉の表面の赤いつぶ(腺細胞)から、たんぱく質をとかず消化液が出てきます。とけたハエの養分は、7～10日ぐらいかかって葉から吸収され、ハエトリグサが葉を開いたときは、ハエの皮や羽だけが残っています。

### つかまえた物は、何でも食べる

ハエトリグサの葉は、10円玉ぐらいの大きさで、この中に入る、ガガンボ、ウスバカゲロウ、アリ、クモ、ダンゴムシ、ヤスデ、カタツムリなどが、獲物になります。ハエトリグサは、水ごけを入れたはちに入れ、日当たりのよい所におけば、簡単に育てられます。

虫をとらなくても育ちますが、虫をとったほうが、よく育ちます。(監修・矢野 亮)



ハエをとらえる  
ハエトリグサ

